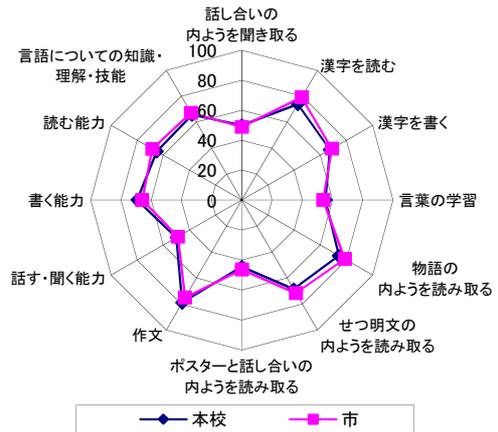


宇都宮市立富士見小学校 第4学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

	本年度		
	本校	市	
問題の内容別	話し合いの内ようを聞き取る	50.0	48.8
	漢字を読む	74.0	79.3
	漢字を書く	67.2	68.8
	言葉の学習	55.4	53.8
	物語の内ようを読み取る	74.1	78.7
	せつ明文の内ようを読み取る	68.6	71.6
	ポスターと話し合いの内ようを読み取る	44.4	46.3
観点別	作文	79.1	75.1
	話す・聞く能力	50.0	48.8
	書く能力	69.2	65.9
	読む能力	65.1	68.4
	言語についての知識・理解・技能	65.8	67.2



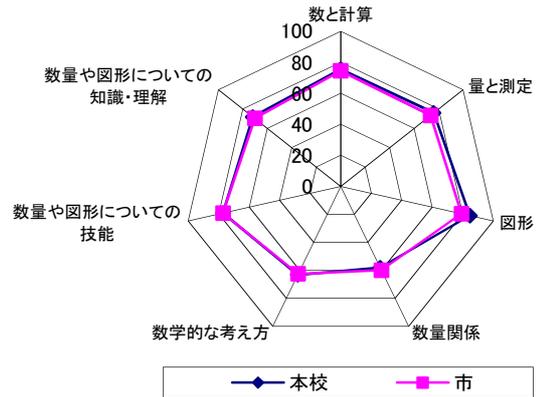
★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内ようを聞き取る	・本年度の平均正答率は50.0%で、市の平均を上回っている。互いの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合おうとする力にはまだまだ課題が残るが、話の中心に気をつけて聞く力は高かった。	・話を聞き取って要点を押さえる力はついているので、今後はメモを取る習慣づけや聞き取った内容の関連付けを行えるように指導していく。
漢字	・本年度の平均正答率は漢字の読みが74.0%と市の平均は下回ったものの、漢字の書きについては67.2%で、概ね身につけてきていると言える。	・習った漢字を使いこなせるように日々の授業だけでなく、小テストなども活用して繰り返し練習させ、漢字の定着を図っていく。また、朝の読書の時間等を利用して新しい漢字に触れる機会を増やしていきたい。
言葉の学習	・本年度の平均正答率は55.4%で、市の平均を上回っている。連体修飾語や連用修飾語といった文の構成やことわざの使い方については、やや正答率が下がってしまったが、漢字辞典の使い方については市の平均に比べても高い正答率であった。	・漢字辞典を使用する力は身に付いているので、今後も国語のみならず必要に応じて他教科においても活用させていく。また、ことわざについても積極的に辞書を活用させて調べさせ、生活と結びつけて意味を理解させるなど定着を図っていききたい。
物語の内ようを読み取る	・本年度の平均正答率は74.1%で、市の平均を下回った。登場人物の気持ちを読み取ることの正答率が低かった一方で、場面の様子や登場人物の気持ちの変化について読み取る力は概ね付いてきたと言える。	・文章を読んだときに登場人物の気持ちや場面の様子に印をつけるなど、読む工夫を習慣付けていきたい。また、登場人物の気持ちの変化をきちんと根拠立てて説明するといった活動を授業で繰り返し行わせていく。
せつ明文の内ようを読み取る	・本年度の平均正答率は68.6%で、市の平均を下回った。文と文のつながりに注意して文章を読み取る力は付いてきた。しかし、細かい点に注意して文章を読み取ること、目的や必要に応じて文章の内容を読み取ることの正答率は低かった。	・文章を図で表すなど構造的に見たり、段落の関係や接続語に注意して読み取ったりするなど、今後も読み取る力をのばしていきたい。また指示語の示す内容を見つける活動を通して、文と文とのつながりに気づけるよう指導していきたい。
ポスターと話し合いの内ようを読み取る	・本年度の平均正答率は44.4%で、市の平均をやや下回った。資料を読み取って、適切な言葉を使って文を書き直すことを苦手とする児童が多く見られた。しかし、資料を目的に応じて読み、内容を的確にとらえる力は身につけてきていると言える。	・文脈に合った適切な話し合いの内容を選び出す力は身に付いている。今後は自分の言葉で、資料から読み取った内容をまとめて記述できるよう指導していきたい。
作文	・本年度の平均正答率は79.1%で、市の平均を上回った。指定された長さで書くことや、2段落構成の文章で書くことについては正答率が非常に高かった。自分の意見と理由を区別して書くことについても十分に身につけてきていると言える。	・作文の基本的な書き方や意見と理由を区別して書く力は身に付いてきている。今後は文章を読み合っ感想を伝え合うなど、お互いの良さを伸ばし合いながら書くことに親しませていきたい。

宇都宮市立富士見小学校 第4学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と計算	75.4	74.5
	量と測定	76.0	73.5
	図形	84.7	79.2
	数量関係	58.2	59.9
観点別	数学的な考え方	63.2	62.5
	数量や図形についての技能	77.2	77.1
	数量や図形についての知識・理解	71.8	70.2



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> 本校の平均正答率は、75.4%で、市の平均とほぼ同様であった。 「億と兆・がい数」では、ある位までの概数の表し方は市の平均より8ポイント上回っているが、1兆が1000億の10倍した数であることは、正答率が50%を切っていて、市よりも10ポイント以上下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な計算や概数の問題については、今後も朝の学習や家庭学習等で繰り返し取り組むようにして、正確に計算できるようにしたい。
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> 本校の平均正答率は、76.0%で、市の平均を若干上回っている。 「角」では、どの問題も市より上回っていて、大きさを読み取る問題は約95%の高い正答率であった。「面積」の問題も市を上回っているが、面積を推察する問題は、市、本校ともに低い正答率であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 面積を推察する問題は、日ごろの生活の中でどんな単位を使えば広さが分かりやすいか考えさせるとともに、複合図形の面積を求める問題についても繰り返し取り組むようにしたい。
図形	<ul style="list-style-type: none"> 本校の平均正答率は、84.7%で、市の平均より5ポイント上回っている。 円の直径の問題は90%を超えている。また、球の半径から球が3つ並んだ時の長さを求める問題についても、市より9ポイント上回り、78%を超える正答率であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年で学習した内容が十分に定着している結果であるが、これからも機会をつくり復習させることで、理解が増すよう指導したい。
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> 本校の平均正答率は、58.2%で、市の平均を若干下回っている。 折れ線グラフの傾きから変わり方を読み取る問題は、市の正答率が58.3%に対し、本校は72.4%と大きく上回っている。 二次元表を利用した問題は、市の正答率も低いがさらに本校も37%と低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 二次元表の読み方は80%を超えた正答率だったので、ほぼ理解していると判断できる。今後は、問題を整理し、何を求める問題なのか考え、あわてずに課題解決に取り組むように指導したい。